

| 高知工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和02年度 (2020年度) | 授業科目 | 建設材料学 I |
|--|--|--|---|--------------------------------------|---------|
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | V3027 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | |
| 開設学科 | SD まちづくり・防災コース | | 対象学年 | 3 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 教科書: 戸川一夫編著「建設材料 (第2版)」 (森北出版社) 参考書: 日本材料学会「建設材料実験」 (日本材料学会) | | | | |
| 担当教員 | 横井 克則 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 【到達目標】 1. コンクリート用材料の主な種類と性質を説明できる。 2. コンクリートの長所や短所を説明できる。 3. フレッシュコンクリートおよび硬化コンクリートの諸性質を理解できる。 4. 配合設計を行うことができる。 5. 鋼材の一般的性質が理解でき、鉄筋の引張試験結果から鉄筋の規格を判定できる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| コンクリート用材料 | 各種材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義を説明でき、コンクリートの性質と関連付けることができる。 | 各種材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義を説明できる。 | 各種材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義を説明できない。 | | |
| コンクリートの長所・短所 | コンクリートの長所や短所を説明でき、短所の改善方法を説明できる。 | コンクリートの長所や短所を説明できる。 | コンクリートの長所や短所を説明できない。 | | |
| フレッシュコンクリート | フレッシュコンクリートの諸性質を説明でき、試験方法も理解している。 | フレッシュコンクリートの諸性質を説明できる。 | フレッシュコンクリートの諸性質を説明できない。 | | |
| 強度 | 硬化コンクリートの各種強度を説明と計算が、その強度比を考察できる。 | 硬化コンクリートの各種強度を説明でき、計算できる。 | 硬化コンクリートの各種強度を説明できない。 | | |
| 耐久性 | 硬化コンクリートの耐久性やコンクリート種類を説明でき、設計・施工時の状況によって添加剤を選択できる。 | 硬化コンクリートの耐久性やコンクリートの種類を説明できる。 | 硬化コンクリートの耐久性やコンクリートの種類を説明できない。 | | |
| 配合設計 | 配合設計を説明でき、かつ計算できる。さらに現場配合を理解している。 | 配合設計を説明でき、かつ計算できる。 | 配合設計を説明できない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 建設材料は種類が極めて多く、その役割も多用であるが、本授業では特に建設分野で多く用いられるコンクリートと鋼材について専門的基礎知識を学習する。建設技術者として良質なコンクリート構造物を作りあげることの重要性を強調し、コンクリート用材料、フレッシュコンクリート、硬化コンクリート、配合設計、鋼材の性質について理解する。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 教科書を中心に授業を進め、各章が終わるごとに演習問題等のレポートを提出させる。計算問題については、配付プリントを提出する。また、理解を深めるためのビデオ学習も含む。 | | | | |
| 注意点 | 【成績評価の基準・方法】試験成績80%、平常の学習状況等 (課題・レポート等を含む) 20%の割合で評価する。成績は、前学期の評価は前期末までの評価、学年末の評価は前期末と後期中間と後期末の評価の平均とする。なお、後期中間の評価は前期末、後期中間の平均とする。技術者が身につける専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。 【事前・事後学習】章末の演習問題は、事後学習として次回授業までに解いておくこと。 【履修上の注意】教科書、関数電卓は授業時には必ず持参しておいて下さい。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 建設構造物と建設材料の関連性について学習する。 | 建設構造物と建設材料の関連性について説明できる。 | |
| | | 2週 | 建設材料の特徴・分類について学習する。 | 建設材料の特徴・分類を説明できる。 | |
| | | 3週 | 材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義について学習する。 | 材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義を説明できる。 | |
| | | 4週 | セメントの物理的性質、化学的性質について学習する。 | セメントの物理的性質、化学的性質を説明できる。 | |
| | | 5週 | セメントの物理的性質、化学的性質について学習する。 | セメントの物理的性質、化学的性質を説明できる。 | |
| | | 6週 | 各種セメントの特徴、用途について学習する。 | 各種セメントの特徴、用途を説明できる。 | |
| | | 7週 | 各種セメントの特徴、用途について学習する。 | 各種セメントの特徴、用途を説明できる。 | |
| | | 8週 | 骨材の種類、特徴について学習する。 | 骨材の種類、特徴について、説明できる。 | |
| | 2ndQ | 9週 | 骨材の種類、特徴について学習する。 | 骨材の種類、特徴について、説明できる。 | |
| | | 10週 | 骨材の含水状態、密度、粒度、実積率について学習する。 | 骨材の含水状態、密度、粒度、実積率を説明できる。 | |
| | | 11週 | 骨材の含水状態、密度、粒度、実積率について学習する。 | 骨材の含水状態、密度、粒度、実積率を説明できる。 | |
| | | 12週 | コンクリート用練混ぜ水の性質を学習する。 | コンクリート用練混ぜ水の性質を説明できる。 | |
| | | 13週 | 各種混和材の種類、性質について学習する。 | 各種混和材を説明でき、設計・施工時の状況によって添加剤を選択できる。 | |
| | | 14週 | 各種混和剤の種類、性質について学習する。 | 各種混和剤を説明でき、設計・施工時の状況によって添加剤を選択できる。 | |

| | | | | |
|-----|------|---------------------------|------------------------------------|--|
| 後期 | | 15週 | 鋼材について学習する。 | 鋼材の種類、形状を説明できる。鋼材の力学的性質(応力-ひずみ関係、降伏強度、引張強度、弾性係数等)を説明できる。 |
| | | 16週 | | |
| | 3rdQ | 1週 | コンクリートの概要や長所・短所について学習する。 | コンクリートの長所、短所について、説明できる。 |
| | | 2週 | フレッシュコンクリートの性質を学習する。 | フレッシュコンクリートに求められる性質(ワーカビリティ、スランプ、空気量等)を説明できる。 |
| | | 3週 | 水セメント比、ワーカビリティ、スランプ、空気量などについて学習する。 | フレッシュコンクリートに求められる性質(ワーカビリティ、スランプ、空気量等)を説明できる。 |
| | | 4週 | 水セメント比、ワーカビリティ、スランプ、空気量などについて学習する。 | フレッシュコンクリートに求められる性質(ワーカビリティ、スランプ、空気量等)を説明できる。 |
| | | 5週 | 圧縮強度、圧縮強度に与える影響について学習する。 | 硬化コンクリートの力学的性質(圧縮強度、応力-ひずみ曲線、弾性係数、乾燥収縮等)を説明できる。 |
| | | 6週 | 圧縮強度、圧縮強度に与える影響について学習する。 | 硬化コンクリートの力学的性質(圧縮強度、応力-ひずみ曲線、弾性係数、乾燥収縮等)を説明できる。 |
| | | 7週 | 各種強度について学習する。 | 硬化コンクリートの各種強度を説明でき、計算できる。 |
| | | 8週 | 各種強度について学習する。 | 硬化コンクリートの各種強度を説明でき、計算できる。 |
| | 4thQ | 9週 | ひびわれ、劣化、耐久性、水密性について学習する。 | 耐久性に関する各種劣化要因(例、凍害、アルカリシリカ反応、中性化)を説明できる。 |
| | | 10週 | ひびわれ、劣化、耐久性、水密性について学習する。 | 耐久性に関する各種劣化要因(例、凍害、アルカリシリカ反応、中性化)を説明できる。 |
| | | 11週 | 非破壊試験について学習する。 | 非破壊試験の基礎を説明できる。 |
| | | 12週 | 各種コンクリートについて学習する。 | 各種コンクリートの特徴、用途について、説明できる。 |
| | | 13週 | 各種コンクリートについて学習する。 | 各種コンクリートの特徴、用途について、説明できる。 |
| | | 14週 | 配合設計の方法について、例題を解きながら学習する。 | 配合設計の手順を理解し、計算できる。 |
| 15週 | | コンクリートの維持管理と補修方法について学習する。 | コンクリートの維持管理と補修方法について、説明できる。 | |
| 16週 | | | | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|---|--|------|---|-------|-------------|
| 専門的能力 | 建設系分野 | 材料 | 材料に要求される力学的性質及び物理的性質に関する用語、定義を説明できる。 | 3 | 前1,前2,前3 |
| | | | 鋼材の種類、形状を説明できる。 | 3 | 前15 |
| | | | 鋼材の力学的性質(応力-ひずみ関係、降伏強度、引張強度、弾性係数等)を説明できる。 | 3 | 前15 |
| | | | セメントの物理的性質、化学的性質を説明できる。 | 3 | 前4,前5 |
| | | | 各種セメントの特徴、用途を説明できる。 | 3 | 前6,前7 |
| | | | 骨材の含水状態、密度、粒度、実積率を説明できる。 | 3 | 前10,前11 |
| | | | 骨材の種類、特徴について、説明できる。 | 3 | 前8,前9 |
| | | | 混和剤と混和材の種類、特徴について、説明できる。 | 3 | 前13,前14 |
| | | | コンクリートの長所、短所について、説明できる。 | 3 | 後1 |
| | | | 各種コンクリートの特徴、用途について、説明できる。 | 3 | 後12,後13 |
| | | | 配合設計の手順を理解し、計算できる。 | 3 | 後14 |
| | | | 非破壊試験の基礎を説明できる。 | 3 | 後11 |
| | | | フレッシュコンクリートに求められる性質(ワーカビリティ、スランプ、空気量等)を説明できる。 | 3 | 後2,後3,後4 |
| | | | 硬化コンクリートの力学的性質(圧縮強度、応力-ひずみ曲線、弾性係数、乾燥収縮等)を説明できる。 | 3 | 後5,後6,後7,後8 |
| | 耐久性に関する各種劣化要因(例、凍害、アルカリシリカ反応、中性化)を説明できる。 | 3 | 後9,後10 | | |
| | コンクリート構造物の維持管理の基礎を説明できる。 | 2 | 後15 | | |
| | コンクリート構造物の補修方法の基礎を説明できる。 | 3 | 後15 | | |
| | 建築系分野 | 材料 | 木材の種類について説明できる。 | 3 | |
| | | | 傷(節など)について説明できる。 | 3 | |
| | | | セメントの製造方法(廃棄物の利用も含む)について説明できる。 | 3 | |
| セメントの種類・特徴について説明できる。 | | | 4 | | |
| コンクリート用軽量骨材があることを知っている。 | | | 3 | | |
| 混和材(剤)料の種類(例えばAE剤と減水剤、フライアッシュやシリカフェームなど)をあげることができる。 | | | 3 | | |
| コンクリートの調合のうち、水セメント比の計算ができる。 | 4 | | | | |
| スランプ、空気量について、強度または、耐久性の観点でその影響について説明できる。 | 4 | | | | |
| コンクリートの強度(圧縮、引張、曲げ、せん断)の関係について説明できる。 | 4 | | | | |
| 各種(暑中・寒中など)・特殊(水密、高強度など)コンクリートの名称をあげることができる。 | 2 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| | | | コンクリート製品(ALC、プレキャストなど)の特徴について説明できる。 | 2 | |
| | | | 耐久性(例えば中性化、収縮、凍害、塩害など)について現象名をあげることができる。 | 3 | |

評価割合

| | 試験 | 課題 | 合計 |
|---------|----|----|-----|
| 総合評価割合 | 80 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 40 | 10 | 50 |
| 専門的能力 | 40 | 10 | 50 |
| 分野横断的能力 | - | - | 0 |